

思い出の5日間

会長 磯村寿夫

9月29日午後5時、新潟県チーム一行15名、センターに到着、直ちに歓迎会。中村ミニバス選手20名による選手団への激励エールが極めて印象的であった。歓迎夕食会を兼ねて、民泊8家庭と選手団の顔合わせ、調理班の初夕食を賞味。

9月30日午前、市民体育館で初練習。180cmの選手のスピード、迫力、そして、フォーメーションプレイに感嘆した。午後は、大城温泉、家族旅行村、栽培漁業センター、ザ・モール周南の店で『下松の味』を満喫した。

10月1日、山口市での総合開会式に出席。調理班の好意により選手たちは昼食弁当を持参。感謝される。

10月2日、開始式に続いて、第一試合、静岡チームと対戦。我が中村民泊協力会は、中村女子ミニバス児童と保護者、そして中村地区住民などスタンドいっぱい陣取り、応援したが、接戦の結果、1回戦で敗退。しかしながら、新潟チームと我が中村地区の《きずな》は、しっかりと残った。夕、送別会。選手団、民泊家庭、調理班、民泊協力会リーダーで投光器をつけて、野外での焼肉パーティー。選手団16名、一人ひとりから心からの感謝のこたばをいただき、大変印象に残った。

10月3日9時、貸し切りバスでの選手団出発の見送り。あつという間の時間の濃縮された5日間であった。会長としては、民泊8家庭のご協力もさることながら、調理班の女性の皆さんの朝4時から夜10時までの献身のご尽力に心から感謝をささげる。

国体は大変大きな国の行事であるが「民泊」は、中村地区の「まちづくり」の活動に大きな刺激を与え、今後の福祉、地域活動等への拡充、深化に資することができたと確信している。民泊家庭、スポ少、スポーツリーダー、福祉ボランティア等が国体民泊を通じて融合したことは、大変意義深いと思っている。





国体女子バスケット選手団を迎えて

調理班長 浅田信子

平成23年9月29日、本日は晴天なり。

瞳の輝き、はじける若さ、少しのためらいも見せず、新潟県女子選手団、堂々の中村民泊入り。すぐさま、地域の皆さんと談笑する様は、勇壮でもあり、貫禄十分、圧倒された初対面でした。調理班としても責任の重大さを改めて痛感。

平均年齢72歳、口ほどに身体の利かない元気揃いの女性13人。地域の独居のお年寄りのお弁当作りには、一応、年季は入ってはいるものの、大切な選手の食事となると、自信喪失。思い余って、3月の声を聞く頃から、早々に調理班を結成し、悪戦苦闘の半年間ようやくにして、味よし、色よし、形よし、地元特産のれんこん料理は自慢の一品でもありましたが、残念無念、初戦で敗退し、送別会の焼肉パーティーに全て変身してしまいました。

下松市への民泊入り第1号の新潟県選手団、4泊5日の絆でしたが、血縁関係のない親兄妹、孫たちも誕生し、温もりの通い合う送別の夕べは、生涯忘れ得ぬ大きな心の財産となりました。別れの朝、一期一会の手書きの絵、早朝からのつきたての紅白餅、下松銘菓ともども鞆は満杯。

華やかに万歳三唱でのお別れ。

終生忘れじ、新潟県選手団の皆さん、皆さんとの出会いは、私ども地域の絆もより深く強いものとなりました。(和して敬する) 山口国体に感謝、新潟県選手団に感謝、地域の皆様に感謝、素晴らしい出会いに感謝。

みなさまとの赤い絆は、いつまでも温めておきましょう。ありがとうございました。

貴重な体験

民泊家庭 河村 崇

我が家に4泊したのは、新潟県チームの笑顔が印象的な23歳の2人だった。

夕食を終え、家に帰ると、コートの上での厳しい顔つきは消え、ゆったりとくつろぎ、会話も弾んだ。中でも食事の話になると、「毎回いろいろな蓮料理が出て、とてもおいしくいただいています」と調理班の皆様へ感謝していた。

後日、連名の礼状が届いた。民泊で生まれた縁が長く続くことを願っている。



民泊の思い出

歓迎班 小畑 勝敬

選手が来会するまで1ヶ月、歓迎会の準備に追われた。引受けチームである新潟県は、下松市のトップを切って来会することとなり、急ピッチで歓迎会や民泊家庭の装飾を整え、何とか当日に間に合わせることができた。歓迎会には、民泊家庭や中村地区の多くの方々が駆けつけ、中でも中村ミニバスの児童による応援エールは、選手団に勇気と感動を与え、ともに歓迎会を大いに盛り上げてくれた。

応援では、ミニバス児童を中心に結成された大応援団が、大声援を送り、チームに活力を与えた。試合は惜しくも敗れたが、民泊協力会が一丸となって応援し、地域の絆が深まったと感じた。



私たち新潟県成年女子バスケットボールチームは下松市の皆様方の心温まる歓迎に包まれながら、大会期間をスタートしました。私たちは特に中村地区の皆様のお世話になったわけですが、調理班の方々には朝晩の食事に加え、開会式や大会当日にはお弁当やおにぎりまで作っていただき、盛大な歓迎会・送別会での料理など私たちの体のことを最大限に考慮して作っていただきました。

また各家庭の方々におきましても、私たちを家族の一員のように温かく接していただき、万全のコンディションで試合を迎えることができました。

そして、皆様のご配慮で、笠戸島や笠戸ひらめなど下松市の文化にも触れる経験をさせていただきました。

静岡に初戦で負けたことはもちろんですが、中村地区の皆様方の心温まる応援に応えることができなかったということが一番の心残りです。

しかし、皆様のおかげで大会を振り返ると心温まる思い出深い大会にすることができました。本当にありがとうございました。

新潟県バスケットボール成年女子

キャプテン 坪谷愛美

